

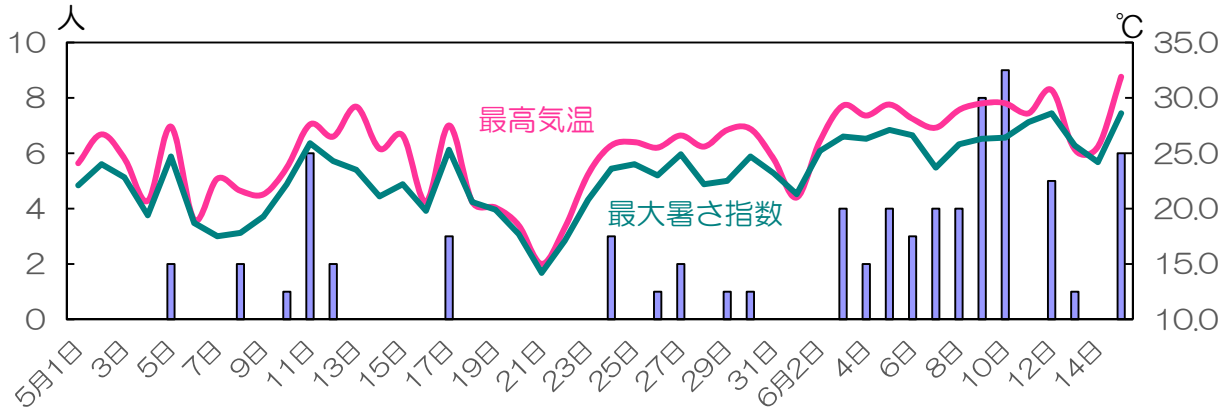
# 熱中症情報

## <搬送数>

令和2年5月1日～6月15日までの搬送数（消防局データを使用）は、計74人（5月24人、6月50人）でした。6月に入り最高気温が25℃を超える日が多く、搬送数も増加しています。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

今年は、新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』を実践し、感染症予防とともに、これまでに以上に熱中症予防にも心掛けましょう。



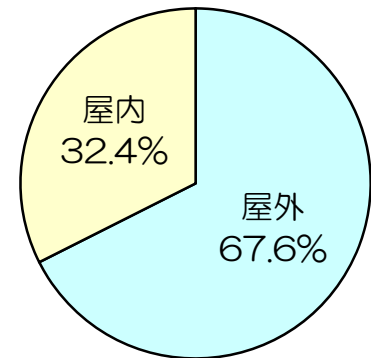
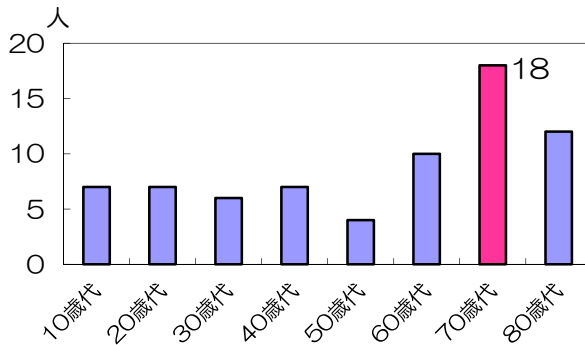
**暑さ指数とは？** 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

年齢別では、70歳代が18人と、最も多く、24.3%でした。

## <発生場所>

屋外67.6%、屋内32.4%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症58.1%、中等症36.5%、重症5.4%でした。高齢者（65歳以上）の重症の割合が高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

